広州日本人学校便り　～平成２７年４月号～

～卒業証書授与式　６０名の門出～

「卒業生が入場します。」盛大な拍手の中を歩みゆく卒業生の表情は、どこか緊張している様子でした。小学部は６年間、中学部は３年間の学びを終え、卒業証書を手にする大切な日。これまで積み重ねてきた日々のゴールが歩を進めるごとに近づき、すぐそこまで迫っています。その重みは、経験するその時に初めて実感するものです。ひとりひとりの胸のうちにどのような思いが巡っているのか、それを思うだけで胸がいっぱいになります。

卒業証書授与式が始まりました。呼名の後、返事をして学校長から証書を受け取ります。担任からの最後の呼名の瞬間です。それは時間で言えばほんの一瞬ですが、この１年間の担任の思い、そしてそれまで関わってきた多くの先生方の思いが詰まっている、とても輝かしいひとときです。その思いに応えるように、卒業生の声に力が宿ります。力強い返事に、会場で見守っていた全ての人たちは、きっとたくましさを感じたはずです。

小学部在校生の会場全体に響き渡る声で伝えるメッセージ、卒業生への尊敬と感謝の思いの強さは胸を打ちました。卒業生はこれまでの歩みと未来への希望、そしてこれまで見守り、導いてくれた方々への感謝を言葉と歌に乗せ、思いのたけをぶつけます。中学部在校生は、代表生徒の言葉と全員合唱で卒業式を彩り、それぞれの熱い思いが、ひとつの大きな波となって、見ている私たちに感動をくれました。これまで多くの卒業生がそうしてきたように、今年度の卒業生もまた、堂々たる姿で在校生へとバトンを引き継ぐことができました。

学校生活の集大成ともいえる卒業式。会場を後にする時の表情は、扉の向こうの新しい世界をしっかりと見据えたような、自信に満ち溢れたものに変わりました。短い時間の中で、これほどまでに人の成長が見てとれるのは、卒業式をおいてほかにありません。

「離れた場所にいるからこそ、それぞれの場所で頑張っている互いを思い合い、もっと頑張ることができる。」先日聞いた、ある先生の言葉です。卒業生がそれぞれの場所で、輝かしい未来を歩んでいくことを願っています。内外の皆様にもご支援を頂きこの日を無事に迎えましたことに感謝申し上げます。

（中野　かほり）